

2010.4.13(K)

徳島新聞

上海の糖尿病検診ツアー参加者

医療・観光に高評価

徳島県は12日、3月に行った医療観光モーターツアーに参加した中国・上海市内の糖尿病患者ら27人のアンケート結果を公表した。観光施設や徳島大学病院の医療サービスに対する評価が高い反面、中国語表記やカード決済への対応の遅れを指摘する声もあった。県は今後、ツアーを商品化する上で参考にする。

県がアンケート公表

訪れた観光施設11カ所、り会館（徳島市）祖谷の5カ所、満点で採点しても、かずら橋（三好市）の5カ所、平均4.5カ所。体験メニュー4件点と高かった。平均点を、平均4.3点で、阿波上回ったのは、観潮船と踊り体操と、藍の館（藍渦の道、大塚国際美術館 住町）での藍染体験が平均（以上鳴門市）阿波おど 均点を上回った。

対応遅れ指摘

中国語表記
決済手段
中力

徳島大学病院の糖尿病検診は、受診者10人全員が「スムーズに受けられた」と評価。医師や看護士の説明などサービス面も、無回答の1人を除く9人が「満足した」。

9人の旅行会社関係者のうち、6人が「徳島の医療観光を組み込んだ商品企画・販売したい」と回答。今回初めて徳島を訪れた人は22人で、27人全員が「また徳島を訪れたい」と答えた。多くの課題も指摘された。受け入れ態勢は「出ている」。

入国手続きに時間がかかりすぎる」「観光地に中国語表記がない」「（中国の銀行ネットワークの決済サービス）銀聯を量販店で使えない」と改善を求められた。ツアールートも「徳島の知名度は低い。関西各府県と共同で商品開発した方がいい」との意見があった。

県は、ツアールートを改善し、5月に上海万博会場で開く商談会で現地旅行業者に売り込む。観光企画課は「観光施設などに参加者の声を伝えて対応を促す一方、具体的なルートを完成させて業者に提案したい」と話している。